

「せんだいスクール・オブ・デザイン」受講説明会
2010年 秋学期

<http://sendaischoolofdesign.jp>

コンセプト

2010年の秋から、
東北大学の都市・建築学専攻がエンジンとなり、
地域と連動する新しい教育プログラム、
せんだいスクール・オブ・デザイン（SSD）が起動する。

建築と多領域をつなぐ。
大学と仙台市をつなぐ。
そしてこれは地域と世界をつなぐ運動体である。

まず建築から変わる。
スクラップ・アンド・ビルドに邁進した20世紀は終わった。
現在の激変期において、
本来、さまざまな技を束ねるアーキテクチャー＝建築がもつ総合的なデザイン力は、
ただハコをつくるのではなく、
アーバンデザイン、プロダクト、映像、アート、音楽、情報通信システムなど、
様々な領域と共同作業を行い、有効なコンテンツの創造にも寄与するだろう。

続いて教育が変わる。
SSDは、国内外のすぐれた建築家やデザインの実務家を招き、
街に飛びだし、大学の枠を超える。
その目標は、大学院生と地域のクリエイターが参加し、互いに刺激しあい、
地域の問題にとりくむ実践的なプロジェクトやワークショップなどを通じて、
時代の変動に耐えうる、多規範適応型のタフな人材を育成すること。

そして仙台から変わっていく。
グローバリズムの時代における都市間競争のなかで、
SSDは仙台がもつクリエイティブ産業のポテンシャルを引きだしながら、
確かなデザインの拠点をつくること、
クリエイターたちのネットワークのハブをつくること、
世界に向けて情報を発信することをめざす。
SSDを巣立つ卒業生は、地域の活性化を担い、都市の姿を変えていく。
デザインとコミュニケーションの力によって、
市民がシビックプライド、すなわち都市への誇りと愛着を抱くことで、
仙台は持続的に魅力を高めていこう。

地域を変えることは、世界を変える第一歩である。

教育システム

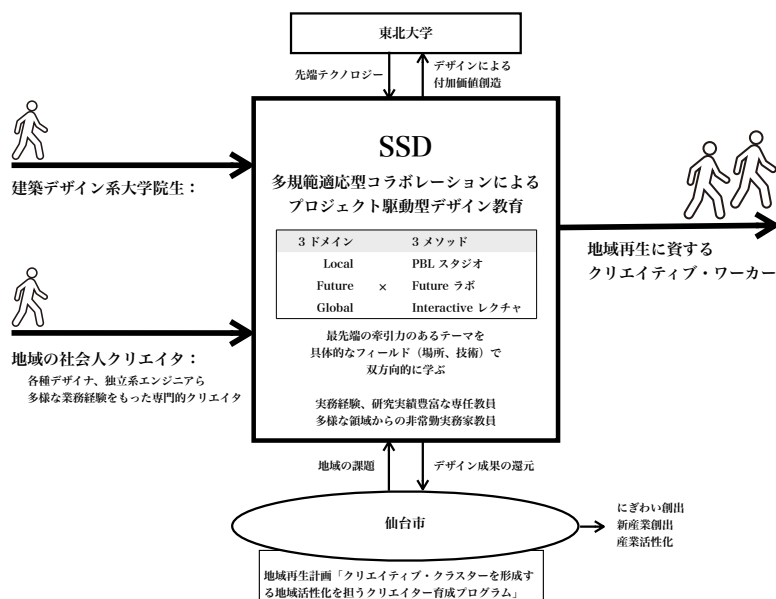
概要

東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻は、仙台市と連携し、文部科学省が運用を行う科学技術振興調整費のプログラム「地域再生人材創出拠点の形成」の一環として、「せんだいスクール・オブ・デザイン」を開講いたします。本事業は、仙台市の地域再生計画「クリエイティブ・クラスターを形成する地域活性化を担うクリエイター育成プログラム」と連携して平成27年3月まで実施されます。

せんだいスクール・オブ・デザインの目的は、地域の活性化を図りうる人材としてコラボレイティブなクリエイターおよびプロデューサーを養成することです。

養成の対象者は、建築デザインをはじめ、アーバンデザイン、プロダクトデザイン、グラフィックデザイン、映像、音楽、ICT システム開発等、様々な領域の社会人クリエイターおよび、建築デザイン系の大学院生。受講生は仙台地域の社会から広く募集されます。

地域の社会人クリエイターと建築デザイン系大学院生のコラボレーションによるプロジェクト駆動型デザイン教育



せんだいスクール・オブ・デザインでは、地域の課題にもとづいたプロジェクトに、業務経験を持つ地域の社会人クリエイターと学術的知識を持つ建築デザイン系大学院生が共同で参画し、東北大学の先端テクノロジーなど様々な視点からデザインを行なう多規範適応型コラボレーションによるプロジェクト・ベースド・ラーニングを通じ、実践的なプロジェクト駆動型デザイン教育を実施します。

修了生は、せんだいスクール・オブ・デザインでの学習経験を通じて、立体化された守備範囲で、アウェイでも戦えるコラボレーション・スキルを備え、多規範に適應できる知的に開かれた構えを獲得し、地域再生に資するクリエイティブ・ワーカーとして活躍することが期待されます。また、同窓会等によるネットワークの広がりや、仙台市をはじめとする地域社会の継続的な活動支援を期待できます。

せんだいスクール・オブ・デザインの3つのドメイン

せんだいスクール・オブ・デザインは3つのドメイン（領域）で活動します。

1. **Local**：行政やコミュニティとの協働を通じて、地域の切実な課題に取り組み、成果を地域社会に還元すべく情報発信をおこないます。
2. **Future**：建築以外の他領域、企業との協働を通じて、テクノロジーを活用したイノベーションによる未知なる価値を創出し、現実を拡張します。
3. **Global**：他都市、異文化との交流を通じて、ネットワークの拡張とマーケットの統合をはかり、異なる価値へと展開します。

せんだいスクール・オブ・デザインの3つのメソッド

せんだいスクール・オブ・デザインでは3つのメソッド（方法）で学びの機会を提供します。

1. PBL [Project Based Learning] スタジオ：

参加者が共同で具体的なプロジェクトに取り組む少人数制のデザイン・スタジオ。
複数のスタジオが同時に開講されますので、受講生の関心に応じて選択します。

2. Futureラボ：

様々な領域の先端研究を活用しながらデザインの可能性を拡張するリサーチ・スタジオ。
複数のスタジオが同時に開講されますので、受講生の関心に応じて選択します。

3. Interactiveレクチャ：

アウトリーチから最先端スキルの獲得まで領域横断的に学ぶレクチャ・シリーズ
PBLスタジオやFutureラボを補完する横断的内容で、様々なスタジオの受講生や一般客が一堂に会する機会となります。

2010年度 秋学期 開講予定科目

PBLスタジオ1 メディア軸「ウェブの時代に紙の媒体ができること」

担当教員：五十嵐太郎（東北大学 都市・建築学専攻）、磯達雄（フリックスタジオ）

このスタジオでは、現在におけるメディアの状況を考察しつつ、実践としては最終的に雑誌をつくることを目標に掲げる。紙のメディアからネットの情報へ。ゼロ年代に入り、既存の雑誌が次々と消え、ほとんど空気のような存在だと思っていた当たり前の文化的なインフラストラクチャーが喪失した。一方で数多くの同人誌やミニコミが出現し、世代交代も起きている。そうした変動の時代に仙台から発信する文化批評誌を考えたい。おそらく、それは仙台のフィールドワークをもとにしたコンテンツと、地域に限定されない批評的なコンテンツをあわせもつだろう。

PBLスタジオ2 環境軸「Studio Blue Green / ブルーグリーンスタジオ」

担当教員：石田壽一（東北大学 都市・建築学専攻）

今日、地球温暖化、低炭素社会、生物多様性といった「環境」に関わるキーワードを抜きに生活空間のデザインを考えることは、もはや困難な時代になりつつある。高度成長期の間環境がコンクリートやアスファルトでできたグレイ・インフラに支えられた時代であったとすれば、次世代は生態系バランスや環境免疫力を巧みに活用するグリーンインフラの時代なのかもしれない。本PBLでは、環境軸プロジェクトとして、干潟、湖沼、水路、河川、水田、里山などの有機的親水環境を[Green-infra]、水域隣接環境に関わる人工的な生活空間を[Blue-supra]と便宜的に捉え、それぞれのフィールドの持つ環境特性を活かした<青と緑>の双方向的な生活空間のデザインを関連領域の新技术を取り込みながら考え、既往の建築と住空間概念の位相に対する次世代型のオルタナティブ・ドメインとデザイン手法を模索する

PBLスタジオ3 社会軸「まちなか映画館の再生による市街地活性化策のデザイン」

担当教員：小野田泰明（東北大学 都市・建築学専攻）、小杉雅之（日本政策投資銀行）

（仮称）国立メディア芸術センターの計画が、官製マンガ喫茶として非難を浴び、お蔵入りとなったことは記憶に新しい。しかしながら、わが国屈指のコンテンツ産業でもあるメディア芸術定着のために、その拠点形成する施策の方向自体には、大きな可能性が内在している。

本スタジオでは、メディア芸術センターの中核機能である映画機能に着目し、街中から映画館が消えている地方都市の状況を改善する方策としてこの事業を活用する方策を練り上げる。実際に金融サイドからの指導も受けつつ、資金面における官・民・学の協働事業（PPP）を操りながら、空洞化の危機にさらされている中心街を再生するスキルを習得する。

PBLスタジオ4 コミュニケーション軸「映像と建造環境のハイブリッド・デザイン」

担当教員：本江正茂（東北大学 都市・建築学専攻）、中西泰人（慶應義塾大学 環境情報学部）

このスタジオでは、建造環境のデザインと情報環境のデザイン、そして社会環境のデザインを統合されたひとつの「アーキテクチャの問題」として扱い、それらの諸環境を架橋するハイブリッドなデザインを構想する。それは、人間のコミュニケーション能力を拡張し、人間-環境系における様々な情報のやり取りをなめらかにするようなシステムのデザインとして実装されることになるだろう。具体的には、映像と建造環境の関係のプログラミングを通じて、人々の間に新たな振舞いやインタラクションをもたらす仕組みのありかたを考えたい。

PBLスタジオ5 国際軸「トラベリング・ワークショップ／POPULATION：人口変化と都市のアイデンティティ」

担当教員：石田壽一、小野田泰明、本江正茂、堀口徹（東北大学 都市・建築学専攻）

このスタジオは、地域の問題をグローバルな視点から捉えるとともに、文化的・思想的背景の異なる他者との協働の中でプロジェクトワークとして進めることができる人材育成を目指している。東北大学大学院都市・建築学専攻が、モンペリエ（仏）、メルボルン（豪）の建築系大学と共同で、毎年、世界各地の異なる地域を取り上げ、現地に渡航して多国籍なプロジェクトチームで取り組む「国際建築ワークショップ/WAW」と連携して行う。2010年度は、メルボルン近郊の灌漑地域ミルドウーラを対象地として取り上げる。

Futureラボ1「建築は、どこまでの可能性をもちうるのか」

担当教員：石上純也（石上純也建築設計事務所）

石上純也は、ヴェネチアビエンナーレ国際建築展2010と豊田市美術館の個展では、実際の制作により建築の極限を追求し、資生堂ギャラリーでは、来年の出版を見据え、その枠組をどこまで拡張できるかという思考実験を行いました。課題は来るべき本とつながるものがよいでしょう。新しい素材や空間の概念、あるいは地形や天候のデザインから地球外の環境まで、建築は学際的な分野と連動し、可能性を広げられます。できることなら、すぐれた研究者を多く抱える東北大学の知の資材を発掘し、それらの成果と連動しながら、新しい建築の世界を開くことを考えます。

Futureラボ2「建築とは〈からまりしろ〉をつくることである」

担当教員：平田晃久（平田晃久建築設計事務所）

都市の近代化は、日本を含めた先進諸国ではひとまずの成熟を迎えている。とはいえ、現実には急成長を遂げつつある国が多くあり、今後不可避的な成長が想定される国は無数にある。囲いとった空間をコントロールする20世紀型の建築スキームを超えて、環境とからまり合うような21世紀型の建築スキームを創出し、近代化の質を転換することが求められている。本スタジオでは、高度に集積した都市的な状況を新しいスキームで実現する可能性を探求する。建築学やその周辺を含め、生物学、数学など関連する諸研究との共同も視野に入れながら、プロトタイプ的提案の制作を行う。

Interactive レクチャ

11月、12月、1月に開講予定。

学習環境

よい学習のためには、よい環境が必要です。せんだいスクール・オブ・デザインでは、様々な工夫によって、よりよい学習環境を提供していきます。

開講初年度となる2010年度は、暫定的に東北大学青葉山キャンパスの都市・建築学専攻が使用している環境を共用します。

社会人受講生も、駐車場、LAN、図書館が使用できます。

受講モデル

受講コース

受講にあたっては在籍期間と修了認定要件に応じて2種類のコースがあります。

	在籍期間	修了認定に必要な取得ポイント数
基礎コース	半年	1.0以上
発展コース	一年	2.0以上

受講および修了認定は、半年ごと年2回おこなわれます。

2010年度秋学期からの受講期間は、下記のとおりです。

基礎コース 2010年11月1日から2011年3月31日まで

発展コース 2010年11月1日から2011年9月31日まで

次回、2011年度春学期の受講受付は2011年4月の予定です。

受講料

無料です。ただし、保険料や課題制作材料費等、一部実費の自己負担をいただく場合があります。

受講資格

社会人クリエイタ（今期募集定員15名）：仙台市内に居住もしくは勤務しており、クリエイティブ産業（注1）に従事している方。

大学院生（今期募集定員15名）：学都仙台コンソーシアム（<http://www.gakuto-sendai.jp/>）に加盟する大学の、建築、環境、デザイン系専攻に在籍する大学院生（修士課程、博士課程問わず）および研究生。

注1：広告制作、建築設計、デザイン、映像・音声・文字情報制作、写真、音楽情報制作、著述・芸術家、印刷、ソフトウェア、放送、学術・開発研究機関、興行場・興行団などの業を含みます。
該当するか不明の場合は事務局までお問い合わせください。

修了要件

	在籍期間	修了認定に必要な取得ポイント数
基礎コース	半年	1.0以上。 ただし、スタジオ科目群から少なくとも1科目を履修。
発展コース	一年	2.0以上。 ただし、スタジオ科目群から少なくとも2科目を履修。

科目群	科目	秋学期	春学期	ポイント
スタジオ科目群	Futureラボ	開講	開講	1.0
	PBLスタジオ（国際軸以外）	開講	開講	1.0
	PBLスタジオ（国際軸）	開講	開講せず	0.7
レクチャ科目	クリエイティビティレジデンス	開講せず	開講	0.7
	Interactiveレクチャ	3回	3回	0.2

ただし、Interactiveレクチャは各学期3回開催のうち2回以上参加すること。

また、複数のFutureラボ、または複数のPBLスタジオをひとつの学期内で履修することはできません。

受講の負荷

受講の負荷は、おおよそ以下の目安となるでしょう。

PBLスタジオ：隔週で18時から21時までの演習または講義、全6回。授業時間外に宿題とグループワーク。

Futureラボ：隔週で18時から21時までの演習または講義、全6回。授業時間外に宿題とグループワーク。

Interactiveレクチャ：毎月一回、19時から21時まで講義。全3回。宿題なし。

たとえば、基礎コースの場合、半年の間に、PBLスタジオまたはFutureラボのひとつに参加し、Interactiveレクチャを2回受講して、学内発表会と一般発表会でプレゼンテーションし、成果報告書の原稿を作成して、所定の成績を修めれば、基礎コースの修了認定を受けることができます。発展コースは、一年かけて、その2倍以上のポイントを取得することになります。

ただし、開講時間は履修する科目によって変動します。担当教員と履修者として調整のうえ、個別にスケジュール化されることとなります。

受講申込

受講までの流れ

エントリーフォームにてご登録の後、願書をダウンロードして印刷し、必要事項をご記入の上、ポートフォリオ（活動業績資料）と共にご郵送ください。
選抜試験の上、受講者を確定いたします。

[エントリー]

ウェブサイト上のフォームからエントリーしてください。
sendaischoolofdesign.jp

[郵送書類]

以下に示す受講願書およびポートフォリオをご郵送ください。送料はご負担ください。

1. 受講願書 受講願書をウェブサイトからダウンロードし、印刷して、必要事項を記載してください。
2. ポートフォリオ
これまでご自身で制作された作品等、創作活動歴を示すものをA4判のクリアファイル一冊にまとめてください。判型以外、書式は自由です。
なお、お送りいただいたポートフォリオは返却いたしません。

郵送先： せんだいスクール・オブ・デザイン 事務局
〒981-8579
仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-06
東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 内
電話 022-795-4191

願書受付期間：2010年9月24日～10月12日（必着）

願書提出者には受験番号と面接試験日時を、エントリー時にご記載いただいたメールアドレスにお送りいたします。

[選抜試験]

ポートフォリオ審査および面接試験を行いません。

面接日時： 2010年10月16日（土）
時間は願書提出者にメールにてお知らせいたします。

会場： 東北大学大学院工学研究科 人間環境系棟 [F01] ギャラリー・トンチク
仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-06
東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 内

可否通知： 2010年10月18日 本サイト上に合格者の受験番号を公開します。

問い合わせ

せんだいスクール・オブ・デザイン 事務局

〒981-8579

仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-06

東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 内

電話 022-795-4191

電子メール info@sendaischoolofdesign.jp

<http://sendaischoolofdesign.jp>